歴史探訪

時を超え
故郷の原風景と出会う

美しく豊かな自然に恵まれたこの地に、
知恵と工夫と日々の努力で、
豊かな暮らしを求めてきたいにしえの人たち。
そうした誇るべき先人たちの礎の上に、
いま現在の東海村の姿はあり、そして、
未来へ羽ばたこうとしています。

大地に記された人々の祈りと営み

気候が温暖で、海・川からの恵みも豊かな久慈川一帯には、いにしえの時代から人々が住み着き、現在、東海村には約160か所もの遺跡が確認されています。中でも、村内で出土した人物および武人の埴輪（はにわ）は、精巧で特徴ある造形が、先史時代のロマンをかき立ててくれます。

平安時代末期にこの地域一帯は、吉田郡内に属していました。その後、室町時代から戦国時代にかけては、佐竹氏によって支配され、佐竹一族の真崎氏が村松に、小野崎氏が石神にそれぞれ城を築きました。

豊臣秀吉が天下を平定した後、文禄3（1594）年に行われた太閤（たいこう）検地で、久慈川以南の地域は那珂郡となり、村松も石神も那珂郡に属するようになりまし

石製模造品（村有形文化財）

人物埴輪（県有形文化財）

Exploring the History of Tokai Village

Attracted by the mild climate, people settled in this region from ancient times, and ruins exist at about 160 places in Tokai Village. In the Edo period (1603-1868) the area became part of the Mito domain of the Tokugawa family. In the latter part of the Edo period agricultural villages became increasingly desolate, so local wealthy merchants called for the reclamation of Masakiura bay. The work proved to be extremely difficult, however, and it was not completed until into the Showa period in the twentieth century.

虚空蔵堂鐘馗霊神絵馬

武人埴輪（村有形文化財）

た。その後、佐竹氏が出羽秋田に移封され、この一帯は水戸藩徳川氏の領地となりました。

江戸時代末期になると慢性的な農村の荒廃が続き、その打開策として、第9代藩主斉昭は天保検地を行いました。また、斉昭は領内を巡視して、村松山虚空蔵堂に隣接する松林「村松晴嵐」などの景勝地を、「水戸八景」に選定しました。安政3（1856）年には、那珂湊の豪商、西野長次郎が、農村の復興のため真崎浦の干拓許可を水戸藩に願い出ましたが、工事は困難を極め中断されてしまいます。

権現山古墳

直刀および三輪玉（村有形文化財）

村松山虚空蔵堂

大地に記された
人々の祈りと営み

明治時代に入り、明治22（1889）年に市町村制が施行されると、合併により村松村と石神村が誕生しました。

明治30（1897）年には常磐線が開通し、地域の発展に大いに寄与することとなります。明治44（1911）年、中断していた真崎浦の干拓工事が再開され、昭和13（1938）年に完成します。また、大正12（1923）年から始まった村松海岸の砂防林の植栽は、完成までに35年もの歳月を費やしました。

昭和に入り、戦中・戦後の激動の時代を経て、昭和30（1955）年、村松村と石神村が合併し、東海村が誕生しました。「東海」の名は、東方に大海原を臨む地勢と、藤田東湖『正気歌』の中にある「卓立す東海の浜」を引用し名付けられました。

豊受皇大神宮

村松大神宮

水戸八景「村松晴嵐」の碑

The municipal administrative system of cities, towns, and villages was introduced in Japan in 1889, and the villages of Muramatsu and Ishigami were established. In the first half of the twentieth century modernization projects, including the opening of the railway, land reclamation, and afforestation to prevent sand movement, made steady progress, and in 1955, after World War II, the villages of Muramatsu and Ishigami merged to form Tokai Village.

昭和30年　合併記念撮影

東海村の歩み
【写真館】

The History of Tokai Village in Photographs

Take a look back through photographs at the half-century history of Tokai Village, a community with abundant nature and culture that has marched forward on the cutting edge of science and technology as an atomic-energy village.

最先端の科学技術が集まるまち
としての一面を持つと同時に、
「人・自然・文化が響き合うまち」
を目指し発展を続ける東海村。
豊かな自然と文化、そして
原子力とともに歩んできた
東海村の半世紀を、
写真とともに振り返ってみます。

昭和31年　原子力委員会の視察

昭和49年
第29回国体
ホッケー競技

昭和38年　久慈大橋しゅん工

昭和42年　動燃東海事業所設立

昭和41年　役場庁舎完成

昭和30年
3月　村松村と石神村が合併し、東海村が誕生する
4月　日本原子力研究所の東海村設置決定
8月　原研・東海研究所の研究用原子炉（JRR―1）臨界

昭和32年
3月　原子燃料公社東海製錬所が開所
4月　東海電報電話局が新設され、自動電話局が開局
12月　東海駅構内で急行いわて号脱線転覆事故

昭和34年
4月　白方小学校・照沼小学校が開校
9月　原研・東海研究所の国産第1号原子炉（JRR―3）臨界
7月　国道245号線、久慈大橋が開通

昭和35年
10月　原研・東海研究所の動力試験炉（JPDR）が、わが国初の原子力発電に成功

昭和36年
3月　不審火により東海村役場が全焼
6月　母子保健センターが開所
12月　東海中学校の新校舎が完成

昭和37年
2月　東海村役場の新庁舎が完成
7月　原電・東海発電所が営業運転を開始

昭和38年
10月　動力炉・核燃料開発事業団東海事業所設立

昭和39年
7月　ごみの収集を開始

昭和40年
6月　動燃東海営業所が使用済核燃料再処理工場の建設に着工

昭和41年
10月　第1回東海村総合体育大会を開催

昭和42年
1月　三菱原子燃料（株）にウラン加工事業許可
6月　東海村消防本部（署）が発足

昭和44年
3月　水戸対地射爆撃場が返還される

昭和46年
5月　消防庁舎が完成
10月　第29回国体開催（東海村はホッケー会場となる）、天皇・皇后両陛下がご来村

昭和47年

昭和48年

昭和49年

東海村は昭和30（1955）年、石神村と村松村が合併して誕生しました。翌31（1956）年には日本原子力研究所の設置が決定し、以後、数々の原子力関連施設が設置され、先端技術とともに歩んできました。村では安全の確保を最優先し、「原子力平和利用推進・核兵器廃絶宣言」を行うなど、村民の生命や財産を守り、安心して暮らせるまちづくりを実践してきました。

また、地元住民と新住民との融和に努め、「東海まつり」をはじめとするさまざまなイベントを開催し、村としての一体感を盛り上げてきました。国際交流の面では、アメリカ・アイダホフォールズ市と姉妹都市盟約を結び、交換留学生の派遣や受け入れを行うなど、友好を深めてきました。

そして現在、「とうかい21世紀プラン」を基に、村が抱える課題に住民と行政が協働で取り組みながら、誇りと愛情を持てるまちづくりを推進しています。

昭和57年　サッチャー首相が来村

昭和54年　第1回東海まつり

昭和56年　国際親善姉妹都市調印

昭和55年　東海音頭発表

平成3年　白方公園開園

平成元年　公共下水道供用開始

昭和62年　NHKのど自慢収録

昭和50年
6月　清掃センターが完成

昭和51年
5月　青年の家（現・東海村中央公民館）が開館
11月　村民対象の原子力施設見学会を開催

昭和52年
4月　県立東海高等学校が開校。東海村民会館（現・東海文化センター）が開館

昭和53年
4月　東海南中学校が開校。東海村老人福祉センター「みどり荘」が開所
8月　原研の研究用原子炉（JRR－1）が記念展示館としてオープン
11月　原電・東海第二発電所が営業運転を開始

昭和54年
8月　第1回東海まつりを開催

昭和55年
11月　「東海音頭」発表

昭和56年
7月　米国アイダホフォールズ市と国際親善姉妹都市の調印

昭和57年
9月　英国サッチャー首相が来村
12月　東海村総合体育館が開館

昭和58年
7月　東海村保健センターが完成

昭和59年
7月　村民プール「東海スイミングプラザ」がオープン

昭和60年
3月　東海村民憲章を制定
8月　村立図書館が開館

昭和61年
4月　大相撲東海場所
6月　第1回東海村芸術祭を開催

昭和63年
4月　第1回東海さくらまつりを開催

平成元年
2月　ボランティア活動推進協議会が発足し、在宅ボランティアサークルの結成が始まる

平成2年
7月　アイダホ州立100周年を記念し、一般訪問団14人がアイダホフォールズ市を訪問

平成3年
6月　「東海十二景」を選定
10月　国営ひたち海浜公園が一部開園
11月　ふれあいの森公園が開園

平成4年
5月　新清掃センターと衛生センターが完成
8月　原電・東海第二発電所が総発電電力量1000億キロワット時を達成

平成5年
11月　第1回東海村産業祭を開催

【写真館】

平成16年　総合福祉センター「絆（きずな）」オープン

平成6年　東海駅橋上駅舎完成

平成18年　新村立東海病院開院

平成10年　ゆうあいピック茨城大会開催

Established in 1955, Tokai Village achieved development hand-in-hand with advanced technology as the birthplace of atomic energy in Japan and, putting top priority on the ensuring of safety, has implemented the building of a community in which people can live without anxiety. At present the residents and the local government are cooperating in the promotion of community development based on the Tokai 21st Century Plan.

平成17年　東海村発足50周年記念式典

平成13年　姉妹都市交流館オープン

平成7年　第1回I～MOのまつり

平成6年
1月　東海橋上駅のしゅん工式
4月　都市計画道路「東海駅五反田線」が開通
10月　第1回東海I～MOのまつりを開催

平成7年
4月　デイサービスセンター東海と東海村在宅介護支援センターがオープン。東海中学校体育館が完成
3月　東海村役場新庁舎が完成
3月　原電・東海発電所が営業運転停止
10月　笠松運動公園ほかで「ゆうあいピック茨城大会」（第7回全国知的障害者スポーツ大会）を開催
9月　（株）ジェー・シー・オー東海事業所で国内初の臨界事故が発生

平成8年
4月　自主的・自発的な地域活動を奨励するため、「いきいき地域活力助成事業」を導入

平成9年
5月　姉妹都市交流会館が開館
10月　新消防庁舎が開庁

平成10年
8月　笠松運動公園ほかで全国高等学校総合体育大会（インターハイ）開催、東海村はホッケー会場となる

平成11年
3月　県道日立東海線・留大橋が開通
10月　石神小学校新校舎が完成

平成12年
3月　役場本庁舎がISO14001の承認を取得
4月　総合福祉センター「絆（きずな）」がオープン

平成13年
2月　リサイクルプラザとうかいがオープン。東海村発足50周年記念式典を開催
3月　レンタサイクル「エコりん」がスタート
5月　「第13回環境自治体会議東海村会議」を開催

平成14年
4月　「東海村デマンドタクシーあいのりくん」が本格稼動
5月　新村立東海病院が開院

平成15年
3月　東海村勢要覧「出会いとうかい」発行